

2023 年度

金城学院大学 自己点検・評価報告書

金城学院大学 内部質保証推進会議

目次

金城学院大学自己点検・評価報告書について	-----	3
凡例	-----	4
金城学院大学内部質保証の方針	-----	5
金城学院中期計画 大学アクションプラン 分掌表	-----	7
金城学院中期計画 大学アクションプラン 2023 年度進捗状況	-----	10
2023 年度独自計画活動報告	-----	21
2023 年度学科・専攻数値目標報告	-----	24

金城学院大学自己点検・評価報告書について

金城学院大学

学長 小室尚子

この「自己点検・評価報告書」は、「金城学院大学内部質保証の方針」（2019 年度策定）に基づき、本学における教育研究の質の向上と社会的責務を果たすべく、学内の各委員会や各部門（以下「各委員会等」）がみずからの活動について点検・評価した報告をまとめたものです。

各委員会等の活動は、その到達期限を定めた「中期計画到達目標」を踏まえて策定された年度活動計画に従って執り行われています。この「中期計画到達目標」は、「金城学院中期計画（2020～2024 年度）」（以下、「学院中期計画」）におけるアクションプランに基づいて、定められたものであり、このことは本学における各委員会等の活動が、第一に学院の基本方針に基づくものであることを示すものでもあります。

本学におけるこうした諸活動について、本学では、自己点検・評価を通じた以下のような P D C A サイクルによって、質保証を行っています。

まず、毎年 3 月に各委員会等で策定された次年度「活動計画」（Plan）について、金城学院大学内部質保証推進会議（以下「推進会議」）が審議し、改善・向上等の指示を経て、これを承認します。この活動目標に基づき各委員会等で 1 年間活動を行い（Do）、その結果を 2 月に「活動報告」として推進会議に提出します。その後、推進会議小委員会による評価・検証と、推進会議での審議を経て

(Check)、次年度の活動につなげていきます (Action)。


この推進会議から本学における全学的な教学マネジメントについて付託されているのが金城学院大学教育課程編成会議（以下「編成会議」）です。編成会議は、教学マネジメントに関係する各委員会等とともにP D C Aサイクルを展開しており、そのスケジュールは、おおむね推進会議に準じています。こうした編成会議におけるP D C Aサイクルの展開については、推進会議への報告とその承認を経ることで、その適切性を担保するようになっています。

本学では、こうした推進会議と編成会議を中心とするP D C Aサイクルを十分に機能させることを通して、本学の教育研究活動に関する質保証の確立とその充実を目指しています。

凡例

- ・ 本報告書に掲げる「金城学院中期計画 大学アクションプラン 2023 年度進捗状況」「2023 年度独自計画活動報告」および「2023 年度学科・専攻数値目標報告」は、各委員会等より提出され、推進会議または編成会議において承認された 2022 年度の活動報告に基づき策定された、2023 年度活動計画についての報告である。
- ・ 「金城学院中期計画 大学アクションプラン」の各項目を担当する部門は「金城学院第 3 期中期計画（2020 年～2024 年度） 大学アクションプラン 分掌表」に記されている。
- ・ 各々の報告は、所掌の会議において、承認されたものであり、これに基づいて各委員会等は、2024 年度の活動計画を策定し、これを実施することとなっている。
- ・ 各々の項目における進捗状況については、その自己評価の内容によって以下の 4 種類の色分けがなされている。

緑	学院中期計画に基づく到達目標を達成した場合、または当年度の活動目標を達成した場合
青	学院中期計画に基づく到達目標が予定通りの進捗状況である場合、または当年度の活動目標をある程度達成した場合
黄	学院中期計画に基づく到達目標が予定より進捗状況が遅れているものの進んでいる場合、または当年度の到達目標があまり達成できなかった場合
赤	学院中期計画に基づく到達目標が全く進捗していない場合、または当年度の到達目標

が全く達成されなかった場合

- ・ 「金城学院中期計画 大学アクションプラン 2023 年度進捗状況」および「2023 年度独自計画活動報告」については、活動内容の概要が記されている。ただし、中期計画の進捗に遅滞がある場合、または当年度の到達目標が達成できていない場合は、次年度に向けての改善策を付している。
- ・ 「2023 年度学科・専攻数値目標報告」については、活動内容の概要は記されていない。ただし当年度の数値目標が達成できなかった場合は、次年度に向けての改善策を付している。

金城学院大学内部質保証の方針

2019年11月6日制定

金城学院大学（以下、「本学」という。）は本学の掲げる目標を実現するため、以下の通り、内部質保証の方針を定める。

1 基本的な考え方

- (1) 本学は福音主義のキリスト教に基づき、学校教育法にのっとり、女性に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人物を養成することを目的としている。本学が自ら掲げるこれらの目標の実現に向けて、教育研究活動をはじめとする諸活動は、本学の中期計画に基づき行われ、諸活動に携わる組織自らが、自己点検・評価を行い、質の保証とその改善・向上に向けた恒常的な取組みを推進する。

2 組織

- (1) 本学における全学的な内部質保証の取組みは、金城学院大学内部質保証推進会議（以下、「推進会議」という。）が統括・推進し、責任を負う。
- (2) 内部質保証の内、本学における教学マネジメントに関わる事項は、金城学院大学教育課程編成会議（以下、「編成会議」という。）が統括・推進し、責任を負う。

3 活動指針

（全学的な内部質保証）

- (1) 推進会議は、本学における内部質保証推進のため、金城学院大学内部質保証推進会議規程に定める活動を行う。
- (2) 学科・専攻及び委員会（以下、「各部門」という。）は、推進会議の定める基本方針に基づき、毎年度、自己点検・評価を行う。また、各部門は当年度点検・評価の結果及び次年度の計画をまとめ、推進会議に報告・提案し、改善指示に基づき改善に取組み、その結果を推進会議に報告する。推進会議は、各部門による改善結果の報告を受けてこれを確認する。

(教学マネジメント)

- (3) 編成会議は、本学における教育の内部質保証推進のため、金城学院大学教育課程編成会議規程に定める活動を行う。
- (4) 学科・専攻及び教育の内部質保証に係る委員会（以下、「教育の内部質保証に係る各部門」）は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに基づき、教育活動等を実施し、編成会議の定める方針に基づき、毎年度、自己点検・評価を行う。また、教育の内部質保証に係る各部門は当年度点検・評価の結果及び次年度の計画をまとめ、編成会議に報告・提案し、改善指示に基づき改善に取組み、その結果を編成会議に報告する。編成会議は、教育の内部質保証に係る各部門による改善結果の報告を受けてこれを確認する。
- (5) 編成会議は、教学マネジメントに関する自己点検・評価を取りまとめて推進会議に報告する。

4 情報公開

- (1) 本学の社会に対する説明責任を果たすために、毎年度の自己点検・評価報告書等の内部質保証の取組みに関する情報を適切に公表する。

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 分掌表

ビジョン	文言	視点	項目	アクションプラン	主な担当	
1 教育研究の推進と学習支援	学院の使命にあるように、「主を畏れることは知恵の初め」をスクールモットーとし、真理の探究を行うとともに、全人教育を行い、品格を備えた真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する女性を育成しなければなりません。また、主体的に学び、行動できる人材、グローバル化の中で、異なる言語、世代、立場を超えてコミュニケーションできる人材の養成が求められています。本学では、従来から国際理解を持つ自立した女性の育成を行なってきましたが、より一層、この点を意識して推進します。具体的には、 1 福音主義キリスト教に基づいた品格のある女性 2 自ら課題を発見し、解決できる女性 3 国際理解を持つ自立した女性を育成します。そのため、次の視点から検討し、実施します。	キリスト教主義に基づく全人教育、研究の推進	1 キリスト教主義に基づく全人教育	① 礼拝出席の奨励	キリスト教セ	
				② 学生の企画・参加型礼拝の実施		
				③ 近隣教会への出席の奨励		
				④ 金城アイデンティティ科目におけるキリスト教学関係科目の整備		教務委員会
				⑤ 教職員に対する修養会および学生向バイブル・キャンプの充実		キリスト教セ
			2 自ら課題を発見し、解決できるから	① アクティブラーニング等を通じた能動的な学びへの転換の推進	教務委員会 学科 マルチメディアセ	
				② リーダーシップ教育の推進	教務委員会 学科	
				③ ラーニング・コモンズや図書館の整備と利用の促進	学長室 図書館	
			3 国際理解の教育	① 交流協定校の拡大と受け入れ・送り出し留学生の増加	国際交流セ	
				② CASEC スコアの経年変化を基礎とした英語教育体制の運用と改善	教務委員会	
				③ 金城コア科目における英語および外国語科目の整備		
				④ 学内環境〔学内掲示〕における多言語化の推進	学長室	
			4 研究の推進	① 科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の奨励	学長室	
				② 学内助成や特別研究期間制度の整備と利用の促進		
				③ 女性みらい研究センターを中心とした地域社会支援プログラムの開発・研究	学長室	

	学生支援の推進	1 教学面での支援	① 学修ポートフォリオ等を活用した教育体制の構築	教務委員会 マルチメディアセ
			② ルーブリック等による客観的な成績評価の確立	教務委員会
			③ カリキュラム・マップに基づく履修体制の整備と改善	
		2 生活面での支援	① 学生・キャリア支援センター・教員の三者連携による就職支援の充実	学生生活委員会
			② 学生の課外活動やボランティア活動における支援体制の整備	
			③ 学生のマナー向上の推進	学生生活委員会 マルチメディアセ
			④ 受け入れ・送り出し留学生の経済的支援の充実	国際交流セ
		学生の受入の推進	1 質の高い学生の確保	① アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜の整備
	② 入学者選抜における「学力の3要素」の多面的・総合的な評価方法の確立			
	③ 新たな大学入学者選抜制度に対応する本学入試の検討			
		2 高大連携、接続	① 中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充	学長室
			② 中高“Dignity”ルーブリックとの連続性を踏まえた高大接続の強化	
教学マネジメント体制の推進	1 教育体制	① 全学的な内部質保証体制の整備と運用	学長室 FD委員会	
		② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施	学長室	
		③ ディプロマ・ポリシーに基礎付けられた教学のPDCAサイクルの確立		
		④ アセスメント・ポリシーの適切な運用と改善		

				⑤ 「学生自己評価各期ごとの DP 対応ルーブリック」を通じた学修成果の可視化	
				⑥ 外部試験の複数回実施によるコンピテンシーの経年的把握とその向上	
				⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	学科
				⑧ 定期的な授業評価の実施と VOX POP の作成・公表による教育力の向上	FD 委員会
2 地域社会との共生	社会の要請に応じ、産業界や行政等と連携を図りながら、研究や社会連携を行います。また、社会人等に対して生涯にわたる多様な学びの場を提供します。そのため、次の視点から検討し、実施します。	研究成果の社会への還元		① 教育・研究活動成果物のリポジトリ等を活用した発信のいっそうの促進	図書館
				② 各種講座、講演会、KIDS センターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元	学長室
		生涯学習		① 女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践	学長室
				② 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築	
		産学官連携、地域連携		① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携推進	学長室
				② 守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進	

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2023年度進捗状況

—2024年03月06日内部質保証推進会議承認・2024年05月01日教育課程編成会議承認—

通番	ビジョン-視点-項目-アクションプラン	所管会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2022年度到達状況	2022年度活動概要
1	1-1-1-① 礼拝出席の奨励	推進会議	キリスト教センター	学生に向けては、上級生の出席を促進させるため教員方の協力体制を強化。教職員に向けては出席率50%を目指し、呼びかけを強化（2020-24）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	礼拝堂収容人数制限をコロナ前の7割程度に戻し様々な形の礼拝を学生、教職員に提供することができた。また、礼拝への出席は、メール配信、Manaba ニュース機能などを用いて、積極的に呼びかけることができた。
2	1-1-1-② 学生の企画・参加型礼拝の実施	推進会議	キリスト教センター	キリスト者学生の協力が不可欠なので、キリスト者学生の発掘と協力体制を強化（2020-24）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	KCFとKBSの学生に秋の伝道週間の奨励やクリスマス・ツリー点灯式、アドベント・キャンドル点灯、クリスマス礼拝など、それぞれのイベントで複数の参加・協力を得ることができた。
3	1-1-1-③ 近隣教会への出席の奨励	推進会議	キリスト教センター	機関紙金城台上の教会紹介や牧師紹介の欄の充実(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	3_目標をある程度達成できた	「金城台と月毎のWeb配信を更に充実させる。」の効果か、時折、教会に行ってみたくて問い合わせしてきた学生に、最寄りの教会を紹介した。しかしその数は少なく、より積極的な広報活動が必要である。
4	1-1-1-④ 金城アイデンティティ科目におけるキリスト教学関係科目の整備	編成会議	大学教務委員会	2026年度の新共通教育科目のカリキュラム改定に向けてキリスト教学関係科目を検証し、検証結果を踏まえて科目を整備する。(2020-24)	5_到達目標を達成した	4_目標を達成した	今年度のキリスト教関係科目の履修者状況も加え、検証結果を新共通教育作業部会へ明示し、引き継ぎが完了した。
5	1-1-1-⑤ 教職員に対する修養会および学生向けバイブル・キャンプの充実	推進会議	キリスト教センター	教員キリスト教セミナーの出席率100%を目指してプログラムを検討改善（2020-24）	5_到達目標を達成した	4_目標を達成した	教員セミナーの出席100%は非常に高いゴール設定ではあるが、「良い講師」、「興味深い講演内容」、「適切な時期」を考え、高い目標を掲げ続け教員に呼びかけた。同様に軽井沢バイブルキャンプも学生に紹介する機会を増やし、参加者を増やしていく。
6	1-1-2-① アクティブラーニング等を通じた能動的な学びへの転換の推進	編成会議	大学教務委員会	本学における能動的な学びを取り入れている科目を調査し、アクティブラーニングを定義し、その上で能動的な学びを強調した全学カリキュラムを構築する。(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	共通教育科目におけるアクティブラーニングの実施率の検証結果を、新共通教育科目の作業部会へ報告し、新カリキュラムではさらに能動的な学びを多く取り入れるよう依頼した。
7	1-1-2-② リーダーシップ教育の推進	編成会議	大学教務委員会	リーダーシップ教育の推進にむけて、共通教育科目にリーダーシップ教育に関わる科目を設置する。(2020-24)	5_到達目標を達成した	4_目標を達成した	2026年度の新共通教育科目のカリキュラム改定に向けて、リーダーシップ教育に関わる科目設置を検討するように、新共通教育科目カリキュラム変更の作業部会への引き継ぎが完了した。
8	1-1-2-③ ラーニング・コモンズや図書館の整備と利用の促進	推進会議	図書館委員会	図書館の利用状況に関する各種データの充実と、それに基づいた図書館の整備と利用の促進。(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	利用者のニーズに応じた図書費購入資料の見直しに向け、各種データ収集を継続している。また、図書館の利用拡大を目指して電子図書館および昨年度導入のdマガジンの広報活動などを展開し、図書館Instagramで発信している。さらに、学外から利用できるデータベースを増やすため、学術認証フェデレーションへの参加をマルチメディアセンターに提案した。

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2023年度進捗状況

—2024年03月06日内部質保証推進会議承認・2024年05月01日教育課程編成会議承認—

通 番	ビジョン-視点-項目-ア クションプラン	所管会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2022年度到達状況	2022年度活動概要
9	1-1-3-① 交流協定校の拡大と受け入れ・送り出し留学生の増加	推進会議	国際交流センター 委員会	現在、9カ国 24大学との交流協定を締結している。2023年度までに、交流協定の締結を10カ国 30大学にまで増加させる。（2020-23）	4_計画を上回り進んでいる	3_目標をある程度達成できた	台湾の大学と新規に協定の締結をした。フランスの大学とは新規協定について折衝中で新たにインドネシアの大学との折衝も開始した。受け入れ・送り出し留学も適切に遂行した。ただし、コロナ禍により国内外の情勢が変化したため、2020-2023年度の結果をもとに2024年度には新たな中期計画を策定する。
10	1-1-3-② CASEC スコアの経年変化を基礎とした英語教育体制の運用と改善	編成会議	大学教務委員会	CASEC スコアの経年変化と現行カリキュラムとの関係を分析・把握し、これをふまえた授業改善案を提示する。（2020-24）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	後期実施のCASECテストの結果を受け、スコアの経年変化および、前期に実施した授業アンケートの結果をもとに、教育効果の分析を行った。問題のある授業の有無を確認し、必要に応じて担当教員に授業運営等について改善を求めた。
11	1-1-3-③ 金城コア科目における英語および外国語科目の整備	編成会議	大学教務委員会	英語および外国語科目の授業について、評価・点検と継続的な改善を実施する。（2020-24）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	副専攻プログラムについては、TOEICスコアの経年変化にもとづきプログラムの効果について点検した。外国語教育科目のシラバス実施状況について点検した結果、前・後期ともに大きな問題は見られなかった。
12	1-1-3-④ 学内環境における多言語化の推進	推進会議	学長室	留学生にとってわかりやすい学内環境の整備（2020-23）	3_計画通り進んでいる	4_目標を達成した	留学生にアンケートを実施し、回答者の82%から現在の表示（学内環境）で問題がないとの回答を得た。特に各校舎の入口に建物名が記載されていることは91%が把握しており、今後もこの記載を続けることが望ましいとの結論となった。
13	1-1-4-① 科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の奨励	推進会議	学長室	科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の促進を図る体制の整備（2020-24）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	大学運営推進課全学的な研究マネジメント体制のあり方について検討し、研究推進・地域連携センター設立構想を取り纏めた。
14	1-1-4-② 学内助成や特別研究期間制度の整備と利用の促進	推進会議	学長室	学内助成や特別研究期間制度の整備や利用を促進する研究推進体制の強化（2020-24）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	全学的な研究マネジメント体制のあり方について検討し、研究推進・地域連携センター設立構想を取り纏めた。
15	1-1-4-③ 女性みらい研究センターを中心とした地域社会支援プログラムの開発・研究	推進会議	女性みらい研究センター	女性みらい研究センター、KIDSセンター、および心理臨床相談室等における研究成果を、持続的に地域社会に対し還元する体制の整備（2020-24）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	地域社会の実態にあった支援プログラムとして、社会に向けた研究・教育をホームページでの紹介というオープンリソースの体制を整備した。

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2023年度進捗状況

—2024年03月06日内部質保証推進会議承認・2024年05月01日教育課程編成会議承認—

通番	ビジョン-視点-項目-アクションプラン	所管会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2022年度到達状況	2022年度活動概要
16	1-2-1-① 学修ポートフォリオ等を活用した教育体制の構築	編成会議	大学教務委員会	マルチメディアセンターと協力し、学修ポートフォリオを有効活用した本学独自の教育体制を構築する。(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	2_あまり達成できなかった	manabaの「小テスト時間制限機能」について、学内周知に留まり有効活用までは確認できていない。Microsoft365については有効活用に関する教員の認知がまだ低く、意識改革が必要な段階である。今後は学修ポートフォリオをどの媒体で集約するのか具体的な検討を行い、使用ツールを決定する予定である。
17	1-2-1-② ルーブリック等による客観的な成績評価の確立	編成会議	大学教務委員会	ルーブリックの学生自己評価と取得単位数、GPAとの関連を検討することにより客観的な成績評価を確立する。(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	3_目標をある程度達成できた	ルーブリックの自己評価と取得単位数について調査を終えた。報告書は年度末までに作成を終える予定である。
18	1-2-1-③ カリキュラム・マップに基づく履修体制の整備と改善	編成会議	大学教務委員会	カリキュラム・マップに示されたDPと学生の履修状況との関連性を検証し、カリキュラム改定に生かせる体制を整備する。(2020-2024)	5_到達目標を達成した	4_目標を達成した	これまでの検証結果を生かせるよう3ポリシー作業部会と新共通教育科目作業部会に説明し、全ての引き継ぎを終えた。 (1年繰り上げて完了)
19	1-2-2-① 学生、キャリア支援センター、教員の三者連携による就職支援活動	推進会議	看護学部自己評価委員会	キャリア支援センター、看護学部学生生活委員会の連携体制を構築し、看護学部学生のキャリア支援体制を整備する。(2023～2024)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	・看護学科教員を対象に、株式会社マイナビとキャリア支援センターの協力を得て「キャリア支援講習会」を開催した。 ・第1期生が3年生になる2024年度の就職支援に向けて各種講座やイベント開催と学部行事日程との調整や、学部での学生向けキャリア支援環境を検討し、準備に取り組んだ。
20	1-2-2-① 学生・キャリア支援センター・教員の三者連携による就職支援の充実	推進会議	大学学生生活委員会	キャリア支援センターと教員が連携・協力することにより、学生の就職活動に対する課題解決の方法を構築する。(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	例年実施してきた「教員との連携によるゼミ（演習）を単位としたガイダンス（学生にキャリア支援センター利用の意義と目標を理解させる）」について、大学学生生活委員会、各学部教授会を通じての呼びかけを強化し、学生参加者数の増加（昨年度比30%増）を達成した。
21	1-2-2-② 学生の課外活動やボランティア活動における支援体制の整備	推進会議	大学学生生活委員会	クラブ・サークルのボランティア活動に係る支援体制を整え、学生にとって充実したボランティア活動ができるように支援を行う。(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	「金城学院大学地域交流ボランティア」（クラブ、サークル）が大学周辺の機関、団体から依頼を受け、守山区区民会議（ワークショップ）、守山区区民まつり（ステージ）、守山生涯学習センター（演奏）、もりにしクリスマス（イベント支援）等で活動を展開した。
22	1-2-2-③ 学生のマナー向上の推進	推進会議	大学学生生活委員会	学内および学外における学生のマナーの向上。(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	3_目標をある程度達成できた	感染症対策に特化しない通学経路、受講態度等のマナー向上と維持に努めた。
23	1-2-2-③ 学生のマナー向上の推進	推進会議	看護学部自己評価委員会	社会人、医療人としてのマナーを身につけ、多様な価値観や文化を尊重し、人間への畏敬の念をもって他者をいたわり、思いやることのできる優しさを備える。(2023～2024)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	・新入生を対象に、社会人として必要な「マナー講座」を開催した。 ・2年生対象に愛知県ナースセンターから講師を招いて、看護師としてのマナー講習を催した。

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2023年度進捗状況

—2024年03月06日内部質保証推進会議承認・2024年05月01日教育課程編成会議承認—

通 番	ビジョン-視点-項目-ア クションプラン	所管会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2022年度到達状況	2022年度活動概要
24	1-2-2-④ 受け入れ・送り出し留 生の経済的支援の充実	推進会議	国際交流センター 委員会	現在、送出し留学生奨学金支 給総額の上限が1053万5000 円となっている。2023年度ま でに、送出し留学生奨学金支 給総額の上限を2000万円とす る。(2020-23)	4_計画を上回り進んでい る	3_目標をある程度達成 できた	コロナ禍を経て送り出し留学生が減少したため、各自への適切な奨学金の 振り分けはできているが、支給総額としては増えていない。送り出し留学生 を増やすために今後は関係学科との連携をより深めるとともに、奨学金の運 用方法の再検討を含め、2024年度には新たな中期計画を策定する。
25	1-3-1-① アドミッション・ポリシーに 基づいた入学者選抜の 整備	推進会議	入学センター委 員会	アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜方法の整備（2020- 23）	3_計画通り進んでいる	4_目標を達成した	アドミッションポリシーの変更が示されなかったため、現行アドミッションポリシー 並びに活動目標（2）及び（3）に基づき、2025年度入試より新たな 入学者選抜方法である総合型選抜入試の導入を決定した。その他、中期 計画到達期間の4年間には、新たに薬学科に一般入試前期〔複数日 評価型〕、音楽芸術学科に一般公募制推薦入試〔資格・面接型〕が 導入されるなど、入学者選抜の整備が図られた。
26	1-3-1-② 入学者選抜における「学 力の3要素」の多面的・ 総合的な評価方法の確 立	推進会議	入学センター委 員会	入試種別ごとに「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する方 法の確立（2020-23）	4_計画を上回り進んでい る	4_目標を達成した	2025年度入試より実施する総合型選抜入試にかかる「学力の3要素」の 評価の結びつきの作成をもって、全入試の評価方法を確立した。
27	1-3-1-③ 新たな大学入学者選抜 制度に対応する本学入 試の検討	推進会議	入学センター委 員会	新たな大学入学者選抜制度に対応する本学入試体制の整備 （2020-24）	4_計画を上回り進んでい る	4_目標を達成した	2025年度入試より総合型選抜入試を導入することを決定した（8学科・ コース）。
28	1-3-2-① 中高大教育協議会等の 活用を通じた学校間にお ける相互理解の拡充	推進会議	学長室	中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の 拡充（2020-24）	4_計画を上回り進んでい る	4_目標を達成した	新たに計画した中高大教員交流会、中高生向け学科アピール動画の制作 （2月の閲覧に向け制作中）、中学生対象大学見学会、大学研究室 訪問企画、中高生ニーズ調査を全て実施し、学校間における教職員・生徒 の相互理解を図った。
29	1-3-2-② 中高“Dignity”ルーブリ ックとの連続性を踏まえた 高大接続の強化	推進会議	学長室	中高“Dignity”ルーブリックとの連続性を踏まえた高大接続の強化 （2020-23）	4_計画を上回り進んでい る	4_目標を達成した	研究テーマ並びに文献の提示、また、新たに始まったDignity授業への職 員・学生派遣をもって2023年度の活動目標を達成した。この4年間、文 科省の2021入試改革に基づく高大接続型入試の検討に始まり、教職 員・学生の交流など多くの取り組みを通して、高大一貫教育の視点に立っ た高大接続の強化が実現した。

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2023年度進捗状況

—2024年03月06日内部質保証推進会議承認・2024年05月01日教育課程編成会議承認—

通番	ビジョン-視点-項目-アクションプラン	所管会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2022年度到達状況	2022年度活動概要
30	1-4-1-① 全学的な内部質保証体制の整備と運用	推進会議	大学FD委員会	内部質保証体制に関する全学的な理解の徹底と各部門内における組織的かつ多面的なFD活動の体制整備(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	2_あまり達成できなかった	各学部のFD活動内容を集め、整理を行っている。まだ、課題の把握には至っていないが、2024年度は分析を進め、FD活動体制整備を行いたい。
31	1-4-1-① 全学的な内部質保証体制の整備と運用	編成会議	学長室	「大学基準」をふまえた内部質保証体制の整備と運用による改善・向上の推進(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	教育課程編成に関わるWGにおいて、2026年度改訂に向けた目標設定、スケジュールを指示し、各学科と意見交換を行い改善・向上に向けた作業を行った。
32	1-4-1-① 全学的な内部質保証体制の整備と運用	編成会議	学長室	各部門において金城学院中期計画大学関連項目に基づいた活動計画書を作成する。さらに、中間報告・活動報告を検証し、教育課程編成会議で次年度に向けた改善の指示及び改善結果の確認を行う。2020～2022年度の内部質保証に関わる取り組みの結果を元に教学関連の中期計画の原案を策定し、2025年度以降の内部質保証体制の改善・整備を行う。(2020-24)	5_到達目標を達成した	4_目標を達成した	3ポリシー作業部会において、3ポリシーやカリキュラムのあり方について検討を行い、「3ポリシー作成マニュアル」を作成し、全学に共有をはかった。
33	1-4-1-① 全学的な内部質保証体制の評価と運用	編成会議	看護学部看護学科	2022年度に続き、看護学部設置計画を履行し、4年にわたる設置計画を達成することを目標とする（2023～2024年度）。	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	講師に足立はるゑ先生（ナースングリエイティブ代表）を迎え、「カリキュラムと臨地実習指導」をテーマにFD講演会を行った。なお、研究倫理に関する研修の開催に向けて準備をしており、次年度早々に開催予定である。
34	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施	編成会議	学長室	I R室の分析に基づいて、A Pに関係する入試状況と、C PやD Pに関係する教育課程や学修成果の評価を連動させ、3ポリシーを一体的に検証する。(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	「卒業に関わる科目のルーブリック」の2022年度の実施状況とその結果について、教育に関する学科別協議会において検討を指示し、検証を行った。
35	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施	編成会議	日本語日本文化学科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び新カリキュラム案を検討する。(2023-2024)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	新たな「人材像」を作成し、それを敷衍した新DPを策定した。またDPに基づく新カリキュラムも素案を作成したが、その後、新たにコマ数の縮減を要請され、再検討中である。一貫性を意識したAP・CPも原案は作成したが、将来構想委員会での承認を得ていないので、今後も改定等の作業が生じる可能性がある。
36	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施	編成会議	英語英米文化学科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び新カリキュラム案を検討する。(2023-2024)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	学科小委員会において学科の養成する人材像とDPを作成した。また、CPとAPについて、課題を整理した。

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2023年度進捗状況

—2024年03月06日内部質保証推進会議承認・2024年05月01日教育課程編成会議承認—

通 番	ビジョン-視点-項目-ア クションプラン	所管会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2022年度到達状況	2022年度活動概要
37	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用 を根幹とした教育課程の 編成と学修成果の評価 の実施	編成会議	外国語コミュニケ ーション学科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び 新カリキュラム案を検討する。（2023-2024）	4_計画を上回り進んでい る	3_目標をある程度達成 できた	学科 DP に対応した「卒業に関わる科目」に関するルーブリックを改訂し、 その改訂版に基づいたルーブリック評価を、卒業式ホームルームで実施した。
38	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用 を根幹とした教育課程の 編成と学修成果の評価 の実施	編成会議	音楽芸術学科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び 新カリキュラム案を検討する。（2023-2024）	4_計画を上回り進んでい る	4_目標を達成した	3ポリシーの一貫性を視点にしなが、学科の DP、育成すべき人材像、及 びおおよそのカリキュラム構成は完成した。来年度に向けては、特に新設する 科目の授業内容や授業運用について検討し、充実したカリキュラムを具体 的に作成させていく。
39	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用 を根幹とした教育課程の 編成と学修成果の評価 の実施	編成会議	生活マネジメント学 科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び 新カリキュラム案を検討する。（2023-2024）	1_中止	—	大学全体の中における学科の位置づけを含め、学科のあり方に関する抜本 的な見直しの検討がなされていることから、中止した。
40	1-4-1-② 3ポリシーの一体運用を 根幹とした教育課程の 編成と学修成果の評価 の実施（2020年度～ 2024年度）	編成会議	環境デザイン学科	学科に対応した3ポリシーを完成し、履修体制の整備を行い学修 成果の評価の実施を行う。（2023-2024）	4_計画を上回り進んでい る	4_目標を達成した	3ポリシーの一体運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の ため、「3年次の環境デザイン演習や、4年次の卒業研究演習」の前後で 自己評価アンケートを実施し、情報収集を行った。
41	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用 を根幹とした教育課程の 編成と学修成果の評価 の実施	編成会議	食環境栄養学科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び 新カリキュラム案を検討する。（2023-2024）	4_計画を上回り進んでい る	4_目標を達成した	学科の AP、CP、DP について、①学びの特色、②カリキュラム構成、③育 成す べき人材像、④3ポリシーの一貫性の観点から点検を行い、課題を 整理することができた。
42	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用 を根幹とした教育課程の	編成会議	国際情報学科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び 新カリキュラム案を検討する。（2023-2024）	4_計画を上回り進んでい る	4_目標を達成した	学科の3ポリシーについて、目標に掲げた4つの観点から点検を行うことが できた。

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2023年度進捗状況

—2024年03月06日内部質保証推進会議承認・2024年05月01日教育課程編成会議承認—

通番	ビジョン-視点-項目-アクションプラン	所管会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2022年度到達状況	2022年度活動概要
	編成と学修成果の評価の実施						
43	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施	編成会議	現代子ども教育学科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び新カリキュラム案を検討する。（2023-2024）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	学科小委員会が中心となり、学科のAP、CP、DPについて、①学びの特色、②カリキュラム構成、③育成すべき人材像、④3ポリシーの一貫性の観点から点検を行い、課題の整理に取り組み、学科会議において共有した。
44	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施	編成会議	多元心理学科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び新カリキュラム案を検討する。（2023-2024）	4_計画を上回り進んでいる	3_目標をある程度達成できた	2026年度に向けて、③育成すべき人材像と④DPを作成、それに合わせてカリキュラムの見直しを行い、以前から懸案であった教職課程や重複する科目を廃止し、他の資格関連科目の振り分けなどを行った。
45	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施	編成会議	多元心理学科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び新カリキュラム案を検討する。（2023-2024）	1_中止	—	現行のカリキュラムポリシーは現在、2026年度に向けて検討中であり、加筆修正は難しいため中止した。
46	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施	編成会議	コミュニティ福祉学科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び新カリキュラム案を検討する。（2023-2024）	1_中止	—	2026年度からの新カリキュラムへの移行にともなう学科再編のため、新設学科での検討を優先することとし本学科の3ポリシー案及び新カリキュラム案の検討は中止している。
47	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施	編成会議	薬学部薬学科	2024年度からの新コア・カリキュラムに対応するために、①学びの特色、②カリキュラム編成、③養成する人材像、④3ポリシーの一貫性から点検、整理し、学科のAP、CP、DP、養成する人材像とアセスメントポリシーを完成させる。（2023年度）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	2024年度からの「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」に対応した養成する人材像、DP、CPを完成した。APに関しては入試制度に変更がないため、変更しないことを確認した。全学的なアセスメントポリシーは当面作成しない方針に従い、CPの中に評価方法を明記した。一方、現行DPの達成度について、ルーブリック評価表を使って自己評価させ、その結果を検証した。
48	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用	編成会議	看護学部看護学科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び新カリキュラム案を検討する。（2023-2024）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	看護学部設置計画の履行状況について、看護学教育モデル・コア・カリキュラムとの整合性、看護師教育の技術項目と卒業時到達目標の視点から

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2023年度進捗状況

—2024年03月06日内部質保証推進会議承認・2024年05月01日教育課程編成会議承認—

通番	ビジョン-視点-項目-アクションプラン	所管会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2022年度到達状況	2022年度活動概要
	を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施						確認する会議を定期的に開催した。学科の3ポリシー、カリキュラムツリーを改めて検討した。
49	1-4-1-③ ディプロマ・ポリシーに基礎付けられた教学のPDCAサイクルの確立	編成会議	学長室	DPに基づいた学修目標を具体化し、学修成果についてはエビデンスを基にした情報が各部門に共有され、改善できる体制を構築する。(2020-24)	5_到達目標を達成した	4_目標を達成した	3ポリシー作業部会で作成した「3ポリシー作成マニュアル」に従い、カリキュラム・マップを刷新するよう各学科に指示した。さらに、適宜各学科と意見交換を行った。
50	1-4-1-④ アセスメント・ポリシーの適切な運用と改善	編成会議	学長室	アセスメント・ポリシーに示されている各種データを基に経年変化や因果関係を分析する。この結果をもとに学生・各部門への情報提供を行う。また、アセスメント・ポリシーを改善するための基礎資料を作成する。(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	2019年度卒業・修了生の集いにあわせて、卒業生アンケートのための予備的アンケートを実施し、アンケートの分析を行った。
51	1-4-1-⑤ 「学生自己評価各期ごとのDP対応ループリック」を通じた学修成果の可視化	編成会議	学長室	「学生自己評価各期ごとのDP対応ループリック」を入学時から卒業時まで年2回実施し、その経年変化を分析することで学修成果を可視化する。また、学生に対して自らの成長に関するデータを提供できるシステムを確立する。(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	入学時から卒業時までの「学生自己評価DP対応ループリック」の経年変化を可視化するシステム構築を行い、2019年度入学生に示した。
52	1-4-1-⑥ 外部試験の複数回実施によるコンピテンシーの経年的把握とその向上	編成会議	学長室	外部試験(PROGテスト)を入学時を含め在学中2回実施し、経年変化を分析することによって学修成果を可視化する。さらに、他の大学や全国平均との比較分析から、本学の特徴を抽出し、学修目標の改善に生かす。(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	2020年度生のPROGテストの第1回目と第2回目の比較を行い（薬学部は除く）、全学的な分析を行うとともに、学部別の説明会を開催した。
53	1-4-1-⑦ 「卒業に関わる科目のループリック評価」を用いた学位授与体制の確立	編成会議	現代子ども教育学科	学科DPに対応したループリックを作成し、4年間の経年変化による可視化の情報収集ができるようにする。(2020-23)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	「卒業に関わる科目」に関する学科DPに対応したループリック再改訂版の試行的な評価を学科主任・教務委員・FD委員で成績登録後に実施した。その結果を3者で検討の上、完成し、学科会議において共有した。なお、4年間の経年変化による可視化の情報収集を次年度以降に着実に実行していく予定である。
54	1-4-1-⑦ 「卒業に関わる科目のループリック評価」を用いた学位授与体制の確立	編成会議	コミュニティ福祉学科	全学的な検討動向を踏まえつつ、学科DPに対応したループリックの充実を引き続き図り、4年間の経年変化による可視化に向けたの情報収集ができるようにする。(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	現行版を3年生に配布し、卒論・卒研の作成上で適宜活用するとともに、4年生の卒論・卒研では成績評価に関わらない参考資料として、教員の裁量で適宜利用した。

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2023年度進捗状況

—2024年03月06日内部質保証推進会議承認・2024年05月01日教育課程編成会議承認—

通 番	ビジョン-視点-項目-ア クションプラン	所管会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2022年度到達状況	2022年度活動概要
55	1-4-1-⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	編成会議	看護学部看護学科	学科のDPに対応したルーブリックを作成し、各学年での情報収集をもとに、4年間の変化を把握する評価体制を目指す。	4_計画を上回り進んでいる	3_目標をある程度達成できた	看護学部DPに基づく各科目の評価の指標と、看護学教育モデル・コア・カリキュラムに由来する学士力、看護師教育の技術項目と卒業時到達目標他を融合する形で、4年間の学修成果を測る指標について、学生との協働評価という体制の工夫も含めて、次年度も引き続き取り組んでいく。
56	1-4-1-⑧ 定期的な授業評価の実施とVOX POPの作成・公表による教育力の向上	編成会議	大学FD委員会	VOX POPにおいて授業評価アンケート結果を適切に公開し、これをふまえた授業等へのフィードバックができる体制を確立する。(2020-23)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	授業評価アンケートを実施し、授業等へのフィードバックをまとめたVOX POPを完成させた。冊子からWEBへの変更に伴い、従来の情報は引き続き大学HPの学内専用アップし、集計結果のみを一般公開することとした。
57	2-1-① 教育・研究活動成果物のリポジトリ等を活用した発信のいっそうの促進	推進会議	図書館委員会	リポジトリの管理運営の適正な実施。(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	国立情報学研究所のリポジトリの新システム移行が2023年8月に完了し、移行されたデータの確認を行った。また、新システムの入力方法を確認した上で、2023年に刊行された本学紀要のデータを搭載した。現在、今回の作業で判明した問題点の抽出が完了し、分析をしている所である。
58	2-1-② 各種講座、講演会、KIDSセンターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元	推進会議	心理臨床相談室	女性みらい研究センター、KIDSセンター、および心理臨床相談室等における研究成果を、持続的に地域社会に対し還元する体制の整備(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	日本心理臨床学会などの参加及び発表に加え、学会誌および論集、相談室紀要への投稿などを通して、積極的に学外に成果を発表した。また音楽療法学会東海支部講習会の開催を支援し、地域との交流を果たした。
59	2-1-② 各種講座、講演会、KIDSセンターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元	推進会議	KIDSセンター	女性みらい研究センター、KIDSセンター、および心理臨床相談室等における研究成果を、持続的に地域社会に対し還元する体制の整備(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	引き続き、あそびの広場・個別相談・音楽療法などの多面的な子育て支援を実施し、守山区役所・保健センター・社会福祉協議会などの連携を続けている。利用者や地域社会のニーズ把握に努め、大学の資源を活かした子育て支援を次年度も継続する。 地域社会の支援ニーズや活用可能な資源についての情報収集を行い、新たな連携の実践と評価を実施する。
60	2-1-② 各種講座、講演会、KIDSセンターの子育て支援活動等を通じた地	推進会議	女性みらい研究センター	女性みらい研究センター、KIDSセンター、および心理臨床相談室等における研究成果を、持続的に地域社会に対し還元する体制の整備(2020-24)	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	女性みらい研究センター独自の体系的な調査研究の成果を、公開講座として社会に広く公表した。

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2023年度進捗状況

—2024年03月06日内部質保証推進会議承認・2024年05月01日教育課程編成会議承認—

通番	ビジョン-視点-項目-アクションプラン	所管会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2022年度到達状況	2022年度活動概要
	域社会への研究成果の還元開発と実践						
61	2-2-① 女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践	推進会議	女性みらい研究センター	女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践ができるシステムの構築（2020-24）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	女性のための学習プログラムを開発し実践するために、大学入学前の若年期からの生涯学習方法を検討し、研究プロジェクトとして実施した。
62	2-2-② 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築	推進会議	学長室	卒業生との連携をより密にとれる体制の構築（2020-24）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	実施したアンケート結果をもとに検討し、修了生・卒業生の集いを、今後2年間継続して開催することを決定した。
63	2-2-② 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築	推進会議	生活環境学部自己評価委員会	家政学部・生活環境学部同窓会「野のはな」の活動の活性化と恒常的な協議体制の整備。（2020-23）	3_計画通り進んでいる	4_目標を達成した	「野のはな」執行部と学部長が今年度の振り返り、次年度の目標などについて話し合った。また、4年生同窓会幹事各学科4名全12名と「野のはな」執行部との昼食懇談会を実施し、今後の同窓会運営などについて意見交換した。これにより、同窓会運営・活動について恒常的に意見交換できる体制を整えることができた。
64	2-3-① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との地域連携推進	推進会議	看護学部自己評価委員会	県・市町村、医療機関、福祉施設、愛知県看護協会、地域の民間団体、東海地域の看護系大学等と連携を図り、地域の保健・医療・福祉の向上に寄与する地域貢献活動を計画する。（2023～2024）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	<ul style="list-style-type: none"> ・「大学コンソーシアムせと」に3プロジェクト採択された。 ・看護学部臨地実習施設との連携構築として、2023年度実習指導者会議・講演会を実施した。 ・県内看護系大学13校による「日本私立看護系大学協会特別事業 地区活動プロジェクト（愛知県）」にて看護志望の高校生に広報した。
65	2-3-① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大	推進会議	学長室	地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携を推進する全学的体制の整備（2020-24）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	地域連携を推進する全学的なマネジメント体制について検討し、研究推進・地域連携センター設立構想を取り纏めた。

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 2023年度進捗状況

—2024年03月06日内部質保証推進会議承認・2024年05月01日教育課程編成会議承認—

通 番	ビジョン-視点-項目-ア クションプラン	所管会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2022年度到達状況	2022年度活動概要
	学コンソーシアムせと」等との連携推進						
66	2-3-① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携推進	推進会議	薬学部自己評価委員会	学会活動、薬剤師会活動、地方自治体、地域活動への協力（2021-24）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	日本薬学会への理事（総務担当）活動、日本薬剤師会東海支部会支部活動、愛知県薬剤師会及び愛知県病院薬剤師会や各種薬剤師研修などの薬剤師会活動への協力を行っている。また、認定指導薬剤師養成ワークショップへのタスクフォース派遣を行うとともに、今年度なごやサイエンスパークで行われたサイエンスカフェに講師を派遣し、産官学の連携に貢献するなどコロナ禍以前にできるだけ近い状況で実践した。
67	2-3-① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携推進	推進会議	生活環境学部自己評価委員会	企業、団体、地方公共団体との連携のための恒常的な協議体制の構築と運用。（2020-24）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	F D報告会を実施し、学科別協議会で検証した結果を共有するとともに、学科や教員が個々に実践している地域・社会貢献活動に関する情報を学部で共有し、意見交換した。
68	2-3-② 守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進	推進会議	学長室	守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進（2020-24）	4_計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	守山区との連携活動を推進する全学的なマネジメント体制について検討し、研究推進・地域連携センター設立構想を取り纏めた。

2023 年度独自計画活動報告

—2024 年 03 月 06 日内部質保証推進会議承認・2024 年 05 月 01 日教育課程編成会議承認—

(独自計画は単年度を基本とするため計画進捗状況などの項目はない)

通番	所管会議	部門	当年度活動目標	2022 年度到達状況	2022 年度活動概要
69	推進会議	学長室	2026 年度カリキュラム改訂を視野に、魅力的な科目・プログラムの導入を図る。また、外国語・国際系学科の入学確保を目指す「グローバルサイト」の開設等、22 企画におよぶアクションプランを実施する。	4_目標を達成した	共通教育科目を含む 2026 年度カリキュラム改訂について、現在検討が進められている。また、22 企画におよぶアクションプランは全て計画通り実施した。
70	推進会議	学長室	各高校との連携強化に向け、学生派遣を含む具体的な施策を検討し、実施する。	4_目標を達成した	聖カピタニオ女子高等学校、光ヶ丘女子高等学校及び聖マリア女学院高等学校と、それぞれに連携協定を結んだ。また、提携校に対しキャンパスツアーを行った。
71	推進会議	キリスト教文化研究所	学術文化の進展に寄与することを目的に、公開研究発表会を実施する。	2_あまり達成できなかった	学術文化の進展に寄与することを目的とした公開研究発表会は延期となった。現在進行中の研究テーマが多いため、次年度の公開研究発表会を目指したい。
72	推進会議	キリスト教文化研究所	広くキリスト教文化と福音を紹介するため、キリスト教センターと共催で公開講演会を実施する。	4_目標を達成した	キリスト教センターと共催でオルガンとトランペットのコンサートを行った。多くの学生と教職員が出席された。
73	推進会議	キリスト教文化研究所	キリスト教の宣教と継承に貢献するため、故水垣清著『岐阜県キリスト教伝道史覚書（仮称）』を出版する。	4_目標を達成した	岐阜県のキリスト教史をまとめたキリスト文化研究所の出版プロジェクト（故水垣清著『岐阜県キリスト教伝道史覚書』では、10 月に原稿を出版社へ最終提出し、2024 年に出版見込みである。
74	推進会議	キリスト教センター	2021 年から始めた礼拝、イベントの動画作成、編集を国際情報学部メディアスタディーズコース（後藤ゼミ）の学生に依頼し、広報活動を行う（継続）。	4_目標を達成した	後藤ゼミの学生がクリスマス・ツリー点灯式、クリスマス礼拝を録画、編集し、現在キリスト教センターの HP に掲載し、広報活動を行った。
75	推進会議	マルチメディアセンタ -	①TA・SA の業務への問題意識を高める、②外部講師による TA・SA 研修、③TA のスキルアップのための TA・SA による勉強会の開催やピアサポートの充実	3_目標をある程度達成できた	①自習室の案内や適切な印刷への啓発および PC ルームでのマナー向上、ラーニングコモズの活性化に関する意見などを TA・SA から収集し、多くの案を活かすことで業務への問題意識を高めることができた。②リクルートから講師による TA・SA 研修で振り返りを行なった。③TA・SA による勉強会の開催、TA・SA ミーティングなどを通して、学部・学年を超えたピアサポートの充実を図った。
76	推進会議	マルチメディアセンタ -	①K-port, Google, Manaba, Microsoft365 など複数ある ICT ツールの統合可能性に関する検討 ②学生の PC 必携化の流れに対応する ICT 環境整備に関する検討。	3_目標をある程度達成できた	①ICT 統合には、教務システムとの連携が重要であるという観点から、現行の K-port などに変わる教務システムを検討し、決定した。②学生の PC 必携化に伴い、TS・SA による授業サポートが必要な科目が増すことが予想されるため、授業サポートの配置申請の自由度を高めることにした。
77	推進会議	図書館委員会	学生を主体とする図書館利活用の取り組みとして、図書館学生ボランティア Lilian の学内・学外における諸活動の支援を強化する。また学科やゼミ単位での学生の活動を支援できる環境の整備を検討する。	4_目標を達成した	学生協働フェスタ in 東海が本学で開催され、7 大学の学生図書館ボランティアによる交流が実現した。また英文学専攻の院生が企画した「英語絵

2023 年度独自計画活動報告

—2024 年 03 月 06 日内部質保証推進会議承認・2024 年 05 月 01 日教育課程編成会議承認—

(独自計画は単年度を基本とするため計画進捗状況などの項目はない)

通 番	所管会議	部門	当年度活動目標	2022 年度到達状況	2022 年度活動概要
					本の多読用図書化プロジェクト」を図書館で実施した。後期は「図書館サービス演習」受講生による展示を図書館 1 階ラウンジにて開催した。その他 LiLian の活動の支援として、選書会実施、リプレター発行等のサポートを行った。
78	推進会議	国際交流センター 委員会	コロナ禍や経済不安により留学希望者の総数自体が減少している現状を踏まえ、受験生を中心とする高校生に本学の国際交流を知ってもらうための手立てを尽くす。	4_目標を達成した	高校生向けの情報発信は、新しいパンフレット作成やInstagramを活用して積極的におこなった。帰国留学生のプレゼンテーションをオープンキャンパス等で実施し、また高校には 9 月の学祭および 1 月の授業に、受け入れ留学生のべ 11 名を派遣した。
79	推進会議	文学部自己評価 委員会	文学部改組特別委員会を設置し、2023 年度中に新体制の骨子をまとめ、新体制の 3 ポリシーとカリキュラム案を作成する。	3_目標をある程度達成 できた	新しい 3 ポリシーとカリキュラム構築に向け、各学科で詰め作業をおこなっている。
80	推進会議	文学部自己評価 委員会	研究的 F D 活動として、文学部教員による研究成果を共有する機会を設け、研究活動の活性化を図る。教育的 F D 活動として、現代に求められる文学部の学びに関する研修会を開催する。	4_目標を達成した	研究的活動として、2 月 19 日に FD 研修会で山元一晃講師の「言語研究を言語教育に活かす - LSP の視点から -」を実施する。
81	推進会議	看護学部自己評 価委員会	2022 年度に続き、2 年度目の看護学部設置計画を履行し、教育・研究体制の構築を目指す。	4_目標を達成した	・看護師教育コアカリキュラムに基づく実習・演習における技術の卒業時到達度を一部追加・修正し、教育内容と技術到達を測る指標の整合性を図った。 ・地域・在宅看護学実習の実習施設の追加申請を行った。
82	推進会議	消費生活科学 研究所	消費生活科学研究所所員への研究活動支援と地域社会に還元する体制を整備する	4_目標を達成した	消費生活科学研究所所員への研究活動支援（3 件）については実施を完了しており、地域社会還元に向けた活動として「尾張旭市の子どもの学習支援」、「消費生活科学研究所紀要の発行」を本年度中に完了する。
83	推進会議	人文・社会科学 研究所	2022 年度に選出された「共同研究プロジェクト」の中間発表を行う。1 月中旬から下旬に開催予定。この中間発表をもとに、共同研究者は論稿の執筆を進める。	3_目標をある程度達成 できた	2022 年度に選出された「共同研究プロジェクト」の中間発表については、本研究所の在り方に関する議論の進展に鑑みて、所報における中間報告をもってこれに代えることとした。所報に中間報告を予定通り掲載した。
84	推進会議	人文・社会科学 研究所	学術的かつ広く大学教育に関わることをテーマとし、教職員だけでなく学生にも向けた講演会とする。12 月中頃に開催予定。	4_目標を達成した	2023 年度人文・社会科学研究所講演会として「福祉をブランディングで越境し、社会と価値の共創をデザインする」と題する講演会を実施した。学内外より聴衆が多数参加し盛会であった。
85	編成会議	現代子ども教育 学科	2022 年 3 月に作成し着実に実施した「業務の改善策」を踏まえ、2023 年度から始まる新教育課程への移行と 2025 年度まで平行する旧課程の実施を円滑に進める。	4_目標を達成した	2022 年 3 月に作成し着実に実施した「業務の改善策」を踏まえ、2023 年度から始まった新教育課程への移行と 2025 年度まで平行する旧課程の実施を円滑に進めた。

2023 年度独自計画活動報告

—2024 年 03 月 06 日内部質保証推進会議承認・2024 年 05 月 01 日教育課程編成会議承認—

(独自計画は単年度を基本とするため計画進捗状況などの項目はない)

通番	所管会議	部門	当年度活動目標	2022 年度到達状況	2022 年度活動概要
86	編成会議	多元心理学科	国家資格である公認心理師の資格課程に対応した新カリキュラムの実施に伴い、進路として類似する精神保健福祉士の志望者と競合するという問題が生じている。コロナ禍で十分なオリエンテーション等の周知が出来なかったこともあるが、ユニット分けについて、今後のあり方を検討したい。	4_目標を達成した	今年度のユニット分けにおいて、迷っている学生に対して、医療福祉ユニットは、精神保健福祉士コースの開始を2年次の4月以降にして、希望により公認心理師・臨床心理士も（ただし国家資格2つは不可）目指せることとし、演習（ゼミ）を医療福祉と臨床の混合クラスとすることにした。また、資格取得を目指さないことも可能である。ただし、今後運用に伴い生じる問題に対してはその都度検討していくこととする。
87	編成会議	薬学部薬学科	自律学修できる医療人を目指した教育の実践として、問題解決型の授業や、春期及び夏期の休暇時における課題の実施、学生自治活動の支援等によって自律学修能力を強化する。	4_目標を達成した	W1棟に加え、今年度よりW3棟自習室を開放し、自学自習できる場所を提供した。また、薬学部独自のスパイラル型問題解決型学習システム、構造式演習、計算演習などもコロナ禍以前に近い状況で実施した。今後学修成果を評価するとともに自律学修を強化する。
88	編成会議	薬学部薬学科	薬剤師会、病院薬剤師会等の関係諸機関および愛知県内薬学部との連携をより強化し、実務実習の実施の円滑化への協力を実践する。	4_目標を達成した	例年通り、各大学、各県薬剤師会、各県病院薬剤師会と連携を図りながら、実務実習の円滑な実施にあたった。

2023 年度学科・専攻数値目標報告
 (教育課程編成会議 2024 年 05 月 01 日承認)

通 番	部門	数値目標の項目	数値目標	結果	自己評価	次年度に向けての改善策等
1	日本語日本文化学科	大学院や他大学への進学	2 名	5 名	3_目標を上回って達成した	
2	日本語日本文化学科	中高教員試験合格者	1 名	2 名	3_目標を上回って達成した	
3	日本語日本文化学科	司書及び学芸員等への採用	1 名	2 名	3_目標を上回って達成した	
4	日本語日本文化学科	日本文化に関する専門分野への採用	3 名	3 名	2_目標を達成した	
5	英語英米文化学科	4 年次 12 月の TOEIC L&R (コロナ禍のため 12 月にオンラインで実施)	900 点以上 2 名 800 点以上 10% 700 点以上 20%	900 点以上 4 名 800 点以上 20% 700 点以上 44%	3_目標を上回って達成した	
6	英語英米文化学科	英語を活かした職業への採用	22 名以上	24 名	3_目標を上回って達成した	
7	英語英米文化学科	大学院への進学	3 名	2 名	1_目標を達成できなかった	引き続き、説明会等での広報活動や授業・ゼミを通じて大学院進学の魅力と情報を学生に積極的に伝える。
8	英語英米文化学科	英語スペシャリスト養成プログラム 在籍者 26 名のうち TOEIC L&R (※「英語スペシャリスト養成プログラム在籍者」数は休学留学などにより、活動計画提出時から活動報告提出時までの期間で人数が増減することがある。)	900 点以上 3 名 800 点以上 60%	900 点以上 5 名 800 点以上 85%	3_目標を上回って達成した	
9	英語英米文化学科	英語スペシャリスト養成プログラム 在籍者 26 名のうち TOEIC S&W (スピーキング)	レベル 7 以上 2 名 レベル 6 以上 75%	レベル 7 以上 7 名 レベル 6 以上 75%	3_目標を上回って達成した	
10	外国語コミュニケーション学科	[卒業時] 中国語検定・実用フランス語検定・ドイツ語技能検定 2 級合格者	5 名	1 名	1_目標を達成できなかった	フランスと中国・台湾の留学が再開したため、語学研修や長期留学を学生に積極的に勧め、外国語の使用機会を増やしていく。
11	外国語コミュニケーション学科	[卒業時]TOEIC495 点以上の割合	35%	48%(34 名)	3_目標を上回って達成した	
12	音楽芸術学科	専門職への採用・専門分野への進学	15 名	24 名	3_目標を上回って達成した	
13	音楽芸術学科	ヤマハグレード試験合格者数	20 名	33 名	3_目標を上回って達成した	
14	音楽芸術学科	対外的成果発表件数	4 名	2 名	1_目標を達成できなかった	学生に向けて、コンクールや演奏会の参加を促すなどし、成果発表できる場の紹介や推薦できるものがあれば積極的に取り組む。
15	生活マネジメント学科	2 級ファイナンシャル・プランニング技能士の合格者数	10 人	4 人	1_目標を達成できなかった	関連する授業で受験を促し、受験対策勉強会の機会も増やす。
16	生活マネジメント学科	2 級ファイナンシャル・プランニング技能士の合格者数	10 人	4 人	1_目標を達成できなかった	関連する授業で受験を促し、受験対策勉強会の機会も増やす。
17	生活マネジメント学科	公立学校の教員採用試験合格者	1 人	2 人	3_目標を上回って達成した	

2023 年度学科・専攻数値目標報告
 (教育課程編成会議 2024 年 05 月 01 日承認)

通 番	部門	数値目標の項目	数値目標	結果	自己評価	次年度に向けての改善策等
18	生活マネジメント学科	公務員職への採用	1 人	0 人	1_目標を達成できなかった	名古屋市職員などの現職公務員のゲストスピーカー講演や、既存の公務員養成プログラムの着実な実施を通じて、公務員試験に臨む意欲・意思を涵養し、適切な能力を備える取り組みを実施する。
19	生活マネジメント学科	卒業までに学科指定の資格を 1 つ以上取得する学生の割合	100%	100%	2_目標を達成した	
20	環境デザイン学科	専門性を生かした分野における採用	55 名	68 名	3_目標を上回って達成した	
21	環境デザイン学科	衣料管理士 2 級資格取得率	履修者の 70%	100%合格	3_目標を上回って達成した	
22	環境デザイン学科	繊維製品品質管理士の資格取得者	1 名	1 名	2_目標を達成した	
23	環境デザイン学科	空間デザインコース関連資格の取得者	30 名	商業施設士 8 名 インテリア設計士 17 名 商業施設士補 10 名 宅地建物取引士 1 名 インテリアプランナーアソシエイツ 9 名 インテリアプランナー 1 名 合計 46 名	3_目標を上回って達成した	
24	環境デザイン学科	学外コンテストの受賞もしくは社会的に評価された課外活動の件数	各コース 1 件	第 28 回日本建築家協会 東海学生卒業設計コンクール 2023(金賞) vectorworks スカラシップ 2023 (優秀賞) 「第 34 回ザッカデザイン画コンペティション」ベルト・サスペンダー部門 (最優秀賞) 第 30 回美濃和紙あかりアート展／一般部門 (入選) 2023 年度日本建築学会 大会で論文発表 1 名	2_目標を達成した	
25	食環境栄養学科	国家資格(管理栄養士)の合格率	90%以上	96.20%	3_目標を上回って達成した	
26	食環境栄養学科	専門分野への採用率	70%以上	70%	2_目標を達成した	

2023 年度学科・専攻数値目標報告
 (教育課程編成会議 2024 年 05 月 01 日承認)

通 番	部門	数値目標の項目	数値目標	結果	自己評価	次年度に向けての改善策等
27	国際情報学科	国内旅行業務取扱管理者資格取得者	10 人	4 人	1_目標を達成できなかった	在学生全体に対して本資格の有用性を説き、受験者数の増加を目指す。
28	国際情報学科	総合旅行業務取扱管理者資格取得者	5 人	1 人	1_目標を達成できなかった	在学生全体に対して本資格の有用性を説き、受験者数の増加を目指す。
29	国際情報学科	貿易実務検定 C 級合格者	3 人	1 人	1_目標を達成できなかった	在学生全体に対して本資格の有用性を説き、受験者数の増加を目指す。
30	国際情報学科	貿易実務検定 B 級合格者	2 人	0 人	1_目標を達成できなかった	在学生全体に対して本資格の有用性を説き、受験者数の増加を目指す。
31	国際情報学科	通関士資格取得者	1 人	1 人	2_目標を達成した	
32	国際情報学科	世界遺産検定 3 級合格者	30 人	25 人	1_目標を達成できなかった	2024 年度からは試験対策科目「世界遺産研究 A」「B」とも世界遺産アカデミーからの派遣講師がすべての回を担当する予定で、これにより受験者数、合格者数の増加を目指す。
33	国際情報学科	世界遺産検定 2 級合格者	10 人	8 人	1_目標を達成できなかった	2024 年度からは試験対策科目「世界遺産研究 A」「B」とも世界遺産アカデミーからの派遣講師がすべての回を担当する予定で、これにより受験者数、合格者数の増加を目指す。
34	国際情報学科	世界遺産検定 1 級合格者	1 人	0 人	1_目標を達成できなかった	今後 2 級合格者が増えたら自主ゼミの開催等を奨励して、初の 1 級合格者の輩出を目指す。
35	国際情報学科	マルチメディア検定ベーシック合格者	30 人	29 人	1_目標を達成できなかった	授業での受験呼びかけを行うとともに本学での試験会場を設置し受験機会を増やすように務める。
36	国際情報学科	IT パスポート試験合格者	10 人	13 人	3_目標を上回って達成した	
37	国際情報学科	情報セキュリティマネジメント試験合格者	2 人	0 人	1_目標を達成できなかった	2023 年度から変更された試験実施方法や内容に対応した授業内容を検討する。また、IT パスポート試験合格者へ受験を積極的に勧めて受験者数の増加を目指す。
38	現代子ども教育学科	公立の幼稚園教諭/保育士の採用試験合格者数 (のべ)	25 人	40 人	3_目標を上回って達成した	
39	現代子ども教育学科	公立の幼稚園教諭/保育士 (臨時採用を含む) の採用	25 人	27 人	3_目標を上回って達成した	
40	現代子ども教育学科	小学校または中学校の教員採用試験合格者数 (のべ)	24 人	22 人	1_目標を達成できなかった	引き続き授業や現場での体験活動を通し教職の魅力を伝え志望する学生を増やしていく。また、昨今の教員採用試験の早期化に対応した対策プログラムも強化する。
41	現代子ども教育学科	小学校または中学校の教員 (講師を含む) の採用	23 人	25 人	3_目標を上回って達成した	
42	多元心理学科	精神保健福祉士取得コース修了	2 名中 2 名	3 名(1 名復学)中 2 名	2_目標を達成した	

2023 年度学科・専攻数値目標報告
 (教育課程編成会議 2024 年 05 月 01 日承認)

通 番	部門	数値目標の項目	数値目標	結果	自己評価	次年度に向けての改善策等
43	多元心理学科	精神保健福祉士取得コース国家試験合格者	2 名中 2 名	3 名(1 名復学)中 2 名	2_目標を達成した	
44	多元心理学科	専門分野における採用	5 名以上	5 名	2_目標を達成した	
45	多元心理学科	大学院・他大学進学	8 名以上	7 名	1_目標を達成できなかった	臨床分野の大学院進学に向けて一層指導する
46	多元心理学科	社会調査士 資格取得者	30 名以上	30	2_目標を達成した	
47	コミュニティ福祉学科	社会福祉士国家試験の合格率(新卒)	50%	85.7% (12/14 人・過去最高値)	3_目標を上回って達成した	
48	コミュニティ福祉学科	初級パラスポーツ指導員資格取得者	30%	65.1% (28/43 人)	3_目標を上回って達成した	
49	コミュニティ福祉学科	中級パラスポーツ指導員資格取得者	3 人	3 人	2_目標を達成した	
50	コミュニティ福祉学科	准認定ファンドレイザー受験資格取得者	20 人	17 人	1_目標を達成できなかった	在学生オリエンテーション等で本資格ならびに科目履修について一層アピールするとともに、履修者の資格取得を引き続きサポートしていく。 なお次年度の数値目標は、実態を反映するために、配当学年学生数に対する受験資格取得者数の割合(20%程度)で設定する。
51	薬学部薬学科	第 109 回薬剤師国家試験の新卒合格者数	96 名以上	109 名	3_目標を上回って達成した	
52	薬学部薬学科	第 15 回薬学共用試験の合格率	96%以上	90%	1_目標を達成できなかった	2024 年度成績下位者(CBT 不合格者を含む)に対する補習課題を確実に実施するため、個人面談並びに科目別テスト、模試、CBT 問題演習(ESS 及びトライ 1 及び 2)を着実に実施する計画を策定し、それらの実施時期や実施方法を記載したロードマップを使って学生に説明した。現状でも多くの対策を実施しているが、さらに CBT 対策の改善が求められる。事前学習時期のスケジュール調整や、トライ問題集を 3 年次に前倒しして行う。今後、国家試験対策委員会及び薬学教育企画室が協調し、早めの CBT 対策を実施することを確認した。
53	文学研究科国文学専攻	学内外論文掲載、ないし学内外研究発表	5 件	学内研究発表 12 件 学外研究発表 2 件 学内論文発表 2 件 学外論文発表 0 件 計 16 件	3_目標を上回って達成した	
54	文学研究科英文学専攻	修了年次学生による学内研究発表	2 件	1 件	1_目標を達成できなかった	修了年次学生に研究計画のなかで学内研究発表をしっかりと意識させる。 指導教員も発表に向け研究指導をより充実させる。

2023 年度学科・専攻数値目標報告
 (教育課程編成会議 2024 年 05 月 01 日承認)

通 番	部門	数値目標の項目	数値目標	結果	自己評価	次年度に向けての改善策等
55	文学研究科社会学専攻	学内外論文掲載、ないし学内外研究発表	3 件	学外研究発表 2 件	1_目標を達成できなかった	次年度は、個々の院生の研究状況を専攻内で共有し、よりよい研究指導の体制構築に活かすため、専攻主催の研究発表会の開催を従前の年 2 回から年 5 回に増やす予定である。
56	人間生活学研究科 消費者科学専攻	学会発表	最終学年の学生数以上	8 件	3_目標を上回って達成した	
57	人間生活学研究科人間発達学専攻	学会参加率	80%以上	93.75% (= 15/16(臨床心理学分野 14/14、 発達学分野 1/2))	3_目標を上回って達成した	
58	人間生活学研究科人間発達学専攻	専門職への就職 (非常勤を含む) 率修了 年次生	80%以上	88.89% (= 8/9 (発達学 分野 1/1 臨床心理学分 野 7/8))	3_目標を上回って達成した	
59	人間生活学研究科 人間生活学専攻	学会発表もしくは学術雑誌への投稿	1 件以上	学会発表 8 件 論文投稿 2 件	3_目標を上回って達成した	
60	薬学研究科	学会参加率	100% (一人一回以上参加)	100%	2_目標を達成した	
61	薬学研究科	学外学会誌投稿論文受理、ないし学外学 会発表	2 件以上	院生本人による学会発表が 3 件 院生が筆頭著者である論 文発表が 1 件 院生が共著者である論文 発表が 3 件	3_目標を上回って達成した	